



吉井田小 校章  
昭和 39 年制定

令和元年度 学校通信 No. 5 [2019.6.25]

# 野 菊

笑顔が輝く学校

福島市立吉井田小学校

児童数 459名(5/20)

発行者 校長 遠藤嘉人

## 吉井田小防災デー 防災教育と引き渡し訓練

6月22日の土曜授業において、各学年では「防災教育の授業」を行い、学校全体では、「緊急時の引き渡し訓練」を実施しました。

6年生では、日本赤十字福島県支部組織振興課指導講師 土屋悦男先生と青少年赤十字奉仕団 田村良江先生にお越しいたごき、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用して「ドローイング・チャレンジ」を行いました。



この「ドローイング・チャレンジ」とは、「防災コミュニケーションワークショップ」のひとつで、子どもたちが、「非日常」の災害時のコミュニケーション能力の大切さに気づくと同時に、災害時に「自分のいのちは自分で守る＝生きぬく力」ためにはどのように行動すれば良いのか、災害時にまわりにいる人々と協力して問題解決をしていく過程を通して、子どもたちが生きぬく力を身に付けることを目的としています。

(←ルール書を読む6年生)

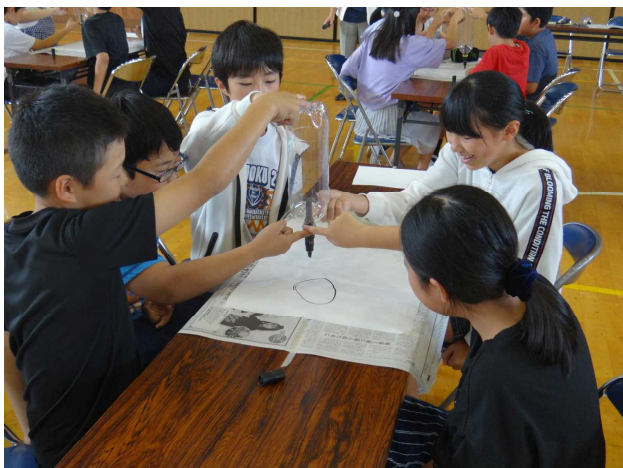
### 「ドローイング・チャレンジ」ワークショップ

<概要> ペットボトルとマーカーで作った大きなペンをチーム全員の人差し指だけで支え、全員で息を合わせて模造紙に五輪マークとカメの絵を描く。

<ルール> ①利き手の人差し指の先だけでペンを支える（第一関節より先だけを使う）

②指を曲げない

③もう片方の手は使ってはいけない



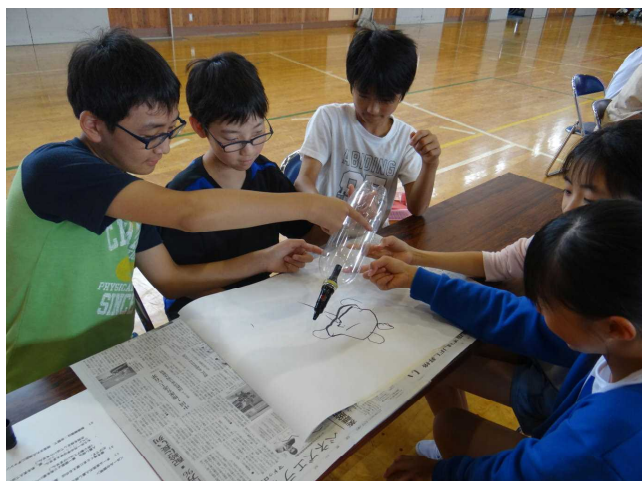
協力して五輪マークを描いています



どの班がうまく描けたかな



今度はカメの絵です



うまく描けそうですね

<活動を通して求めたい子どもたちの姿>

- ①メンバー全員で情報を共有している
- ②作業を行いながらも意見交換を活発にして改善している
- ③「ちょっと待って」などと声をかけている
- ④意見の対立が起こったときお互いの意見を聞いて対処している
- ⑤チーム全員が納得する形で進めている 等



子どもたちの「ふり返しシート」を見ますと、まだまだチーム内での意見交換が十分でなかったように思われました。今後、学校生活の中で見直していきたいと思えます。

## ～引き渡し訓練～



例年3月11日に行っていた「引き渡し訓練」でしたが、今年度は時期を早めて実施しました。

同時に、緊急メールの「開封確認」の訓練も行いました。開封確認できた件数は、全登録数530件中379件、151件が未開封でした。災害時ならば151件の家庭には、メール以外の活用できる全ての手段を用いて連絡を取らなければなりません。現実には不可能に近いです。

今後も緊急メールを出した際に「開封確認」をお願いしながら進めていきたいと考えておりますので、ぜひ、よろしくお願いいたします。